



十六銀行

十六アジアレポート 2020年1月号

JUROKU ASIA REPORT JANUARY 2020

2020年1月6日 発行

十六銀行 法人営業部 海外サポート室

目次

1. ベトナム:「世界最悪の大気汚染都市『ハノイ』」
ハノイ駐在員事務所 川瀬寛之
2. 上海:「『地銀合同セミナー・交流会@深圳 2019』を開催」
上海駐在員事務所 浅野耕示
3. シンガポール:「コワーキングスペース」
シンガポール駐在員事務所 富田邦裕
4. タイ:「GIFU OMOTENASHI～Spirit of Japanese Hospitality」
バンコク駐在員事務所 堀江幸康
5. インドネシア:「インドネシアの現状とこれから」
バンクネガラインドネシア ジャパンデスク 中嶋幸人
6. 為替相場情報

本書中の情報は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては全てお客様御自身でご判断くださいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行及び執筆者はその正確性を保証するものではありません。また、本書中の情報は、法律上、会計上、税務上の助言を含むものではありません。法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談ください。

1. ベトナム:「世界最悪の大気汚染都市『ハノイ』」

ハノイ駐在員事務所 川瀬寛之

経済成長著しいベトナムですが、その陰で大気汚染の問題が深刻化しています。特に筆者の住む首都ハノイ市は、11月頃から「霧の都」と化しています。畑焼きの煙、塵や砂埃、工場や自動車による煤煙などが発生原因と言われていますが、乾季に入ったハノイ市では、空気中の湿度が高く風も弱いため、大気中の汚染物質が上空に停滞しやすい状態が続いており、深刻さが増しています。

■ハノイの大気汚染

写真は「十六銀行ハノイ駐在員事務所から撮影したハノイ市の様子（筆者撮影）」です。「9月上旬（左）と12月上旬（右）」では別世界となっています。現在は濃いスモッグが立ち込め、曇天が続いています。

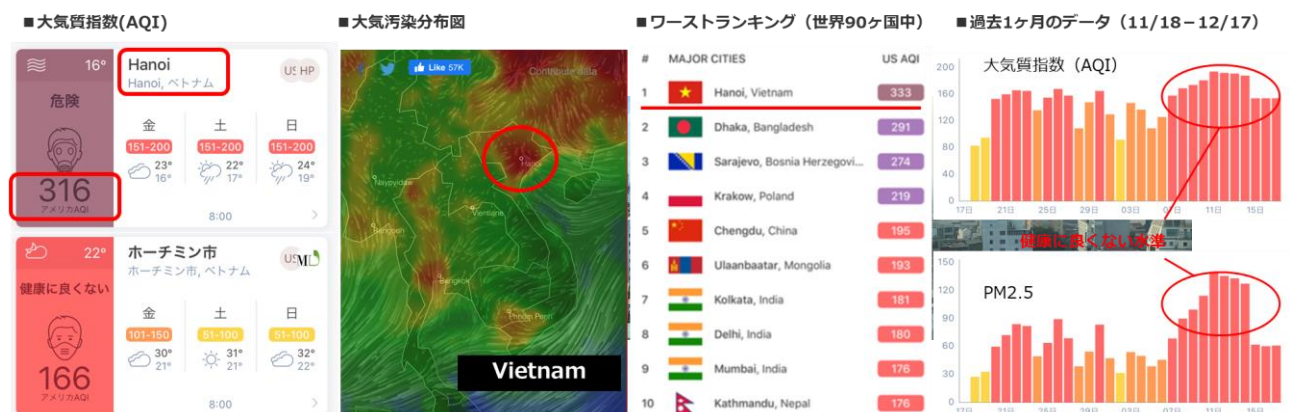


[場所] ハノイ市内、[撮影時期] 9月上旬（左）、12月上旬（右）

■大気汚染が観測史上最悪の数値を記録

世界の大気質データをリアルタイムで提供する「AirVisual」は、ハノイ駐在者にとって欠かせないアプリの一つです。ハノイ市では、大気汚染度合を示す「大気質指数(AQI)」が連日「極めて健康に良くない（指数 201~300）」で推移していましたが、筆者が 12/13 の早朝に確認したところ、「危険レベル（316）」に達していました。同日には「333 を記録」し「世界ワースト 1 位」になりました。

大気汚染情報アプリAirVisual (12/13) ※筆者ダウンロードアプリより



大気汚染がひどい朝晩はマスクが欠かせません。最近では「PM2.5を防止する高機能マスク」が通常の3~4倍売れており、空気清浄機を買い求める人々も家電量販店に殺到しているようです。

■なかなか進まない大気汚染対策

ハノイ市は最近、二酸化炭素を多く排出する「練炭燃料」の使用について2020年末を目途に禁止すると発表し、大気に悪影響を及ぼす「稲わらの焼却」についても中止するよう呼びかけています。しかしながら小手先に過ぎません。あくまで個人的な見解ですが、経済成長を優先しているベトナムでは、政府としても「環境が少々悪化するのはやむを得ない」と考えていると思います。環境を破壊する悪質な企業に対しても、当該地域の経済成長率の低下を招くとなれば、見て見ぬ振りをする場合があります。また、政府を味方につけた企業相手に裁判を起こしても、公正さが保障されない可能性もあります。

開発途上国の急速な経済発展は、時に環境破壊を招き、それが健全な発展を妨げることがあります。今の環境汚染はすでに、やむを得ないという限度を超えています。ベトナムの環境を改善するためには、技術や設備はさることながら、まずは環境保全に向けた国民の意識改革を図る必要があります。そのためには環境保全に関する法整備を急ぎ、監督者の責任を明らかにしていく必要があります。現在の日本のように、「経済発展に関係なく、公害は絶対に許さない」国になることを期待しています。

2. 上海:『地銀合同セミナー・交流会@深圳 2019』を開催

上海駐在員事務所 浅野耕示

2019年12月6日(金)に中国・広東省深圳市において「地銀合同セミナー・交流会@深圳 2019」を開催しました。今回はこのイベントについてご紹介します。

■上海と香港の地銀8行が合同で開催

本商談会は上海に拠点を有する地方銀行5行(十六銀行、きらぼし銀行、山陰合同銀行、七十七銀行、百十四銀行)と、香港に拠点を有する地方銀行3行(足利銀行、京都銀行、南都銀行)が共催したもので、主に中国華南地域へ進出している各行の取引先企業67社88名にご参加いただきました。

華南地域で最大の広東省には自動車産業を中心に製造業が集積しており、今回のイベントを日本全国の各地銀のお取引先に効率的な情報収集・交流を行って頂く機会と考え、各行が協力して開催したもので、当行上海駐在員事務所としては今回で2回目の共催となります。



【 第一部セミナーの様子 】

■第一部セミナー、第二部交流会の二部構成

第一部では、中国4都市、香港、ベトナム、ミャンマーに拠点を有するコンサルティング・グループであるキャストグループ代表の村尾龍尾氏による「米中貿易戦争と今後の中国ビジネス」と題したセミナーを開催しました。第二部では、参加者が自由に交流できる場として交流会を開催し、同時並行で個別面談もセッティングさせていただきました。これは本イベントの開催に先立って、個別に面談を行いたい相手企業を事前にお伺いたうえで、当日1対1で個別面談を行うスケジュールを組ませていただいたものです。



【 第二部では個別面談も組み込み、積極的な交流に活用頂いた 】

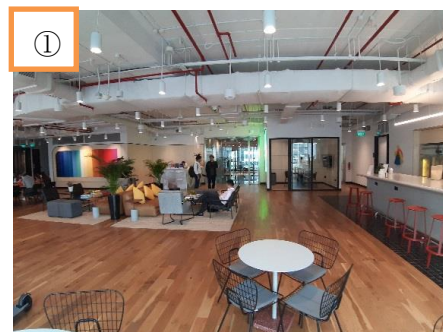
当行上海駐在員事務所では、今回のような日系企業同士のイベントのほか、上海はもちろんのこと中国各地での中国企業も絡めた商談会や事務所での勉強会の開催など、海外ビジネスに取組まれるお客さまのお役に立てる様々な企画を計画していきますので、積極的にご参加ください。

3. シンガポール:「コワーキングスペース」

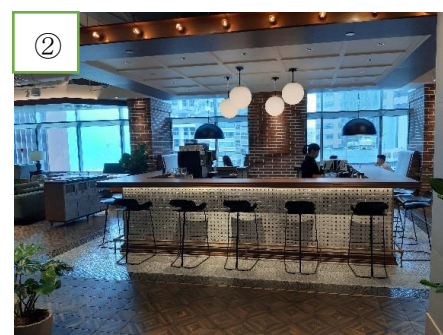
シンガポール駐在員事務所 富田邦裕

日本でもニーズが高まりつつあるコワーキングスペース。シンガポールでは市場調査やプロジェクトオフィスとしての短期利用から、駐在員事務所、現地法人の常駐事務所まで幅広い用途で利用されており、今回はサービスオフィスを含めたコワーキングスペースについてレポートします。

中心地であるラッフルズプレイス駅とタンジョンパガー駅周辺には多くの建物の中にコワーキングスペースがあります。先日視察した施設では受付に日本人が常駐しており、現地赴任する方のために必要な生活情報（教育や病院、保険、携帯電話、お勧めのレストランなど）を提供するところもありました。また数名～大人数までの予約制会議室も併設されており、共有スペースでは卓球台や飲み物カウンター（写真①、②）の設置もありました。もちろんインターネット環境も整っており、総じて快適でした。



コワーキングスペースには大規模で若者に人気のスタイルから、落ち着いた雰囲気のところもあり、スタイルに合ったところを選べるのも魅力でした。中には1日15SGD（約1,200円）から利用できるところもあり、価格面でも魅力があると感じます。サービス（シェア・個室）オフィス（写真③）も様々な形態が併設されており、普段の来客はほとんど無い業務体系の企業や、常に他社との面談の必要がある企業など、それぞれの特徴に沿って使い勝手の良いオフィスを選択することが可能となっています。



コワーキングスペース等に注目が集まる背景には、上がり続けるオフィス家賃の上昇があります。シンガポールではオフィスを借りると相応の家賃負担が発生します。現在の中央商業地区(CBD)では需要が逼迫しているためオフィス賃料は上がり続けており、2019年4～6月期には10年ぶりの高水準を記録しました。7～9月期の空き室率は3.3%（前期比▲0.4ポイント）となるなど需給が緩む様子は無く、来年以降に供給量が増える予定ですが、賃料の上昇基調は続く見通しです。また事務所物件の賃貸については原則として中途解約は認められていません。そこで賃貸期間やオフィスで働く人数など不確定要素が多い場合は、コワーキングオフィスやサービスオフィスにて短い期間から賃貸してみても様子見することも得策であると感じます。



日系の大企業からスタートアップ企業まで入居するコワーキングスペース、サービスオフィスですが、近時は入居者同士の交流を促進する形態もあり、日系のみならずローカル企業との繋がりが出来ることは大変貴重です。是非皆さまもシンガポールへ出張の際にご利用してみたいはいかがでしょうか。

4. タイ:「GIFU OMOTENASHI～Spirit of Japanese Hospitality」

バンコク駐在員事務所 堀江幸康

去る11月25日、バンコク市内のホテル「コンラッドバンコク」にある日本料理店「きさら」において、岐阜県が主催する清流長良川の鮎と飛騨牛のプロモーションイベント『GIFU OMOTENASHI～Spirit of Japanese Hospitality』が開催されました。

ここタイ・バンコクでは、岐阜県農産物流通課による県産品のプロモーションイベントが毎年開催されています。イベントには在タイの日本人だけでなく、タイ人や各国の要人も招待され、約100名が参加されました。

■日本料理店「きさら」が『岐阜鮎海外推奨店』第1号店に認定

今回は、タイにおける岐阜鮎の推奨に長年に亘り寄与されてきたとして、日本料理店「きさら」が、今年度新たに創設された『岐阜鮎海外推奨店』認定制度の第1号店として認定されたことを受けて、河合副知事参加の下、認定式が執り行われました。

「きさら」では、年間約100キロの岐阜鮎が取扱われており、飛騨牛とともに多くの方に愛される食材になっています。

また、株式会社鶴舞屋の高森社長が今回も日本から参加され、同社の鮎の一夜干しや岐阜鮎の昆布巻きなどが提供されていました。また、それらに加え、「きさら」の進藤料理長が腕を振るった岐阜鮎の塩焼きや岐阜子鮎の南蛮漬け、飛騨牛を使ったさまざまな料理も提供されていました。



『岐阜鮎海外推奨店』認定式の様子

■世界農業遺産となった「清流長良川の鮎」

認定式の冒頭、清流長良川の鮎推進協議会長である、玉田県議からのご挨拶では、2015年に「清流長良川の鮎」（里川における人と鮎のつながり）が世界農業遺産に認定されたことについてお話がありました。

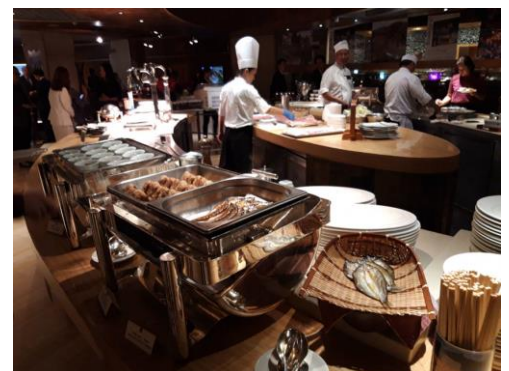
長良川は全長166kmで、その流域には約86万人が暮らしています。長良川は、岐阜県の「母なる川」として、里山・里地の人々の絶えざる営みを豊かなものにしながら、今も清らかに流れ続けています。

途中、タイ語通訳の方が、長良川を「メーナム・ナガラ」と表現されていました。「メーナム」とはタイ語で川を意味する言葉です。タイの「母なる川」と呼ばれるチャオプラヤー川は、タイ語では「メーナム・チャオプラヤー」となります。

川を意味する「メーナム」を直訳すると「母なる水」になります。ここタイでも川は人々の生活を豊かにする「母なる存在」なのだと気付かされました。

岐阜県の「母なる川」、清流長良川で育った岐阜鮎が、ここタイ・バンコクでも多くの方に召し上がって頂けるようになりました。日本から遠く離れたこの地でも、故郷の岐阜を肌で感じるができるのは本当に幸せなことです。

岐阜の豊かな恵みが着実にバンコクへ、そして世界へ広がっていていることを実感しました。



イベントでは岐阜鮎、飛騨牛を使った料理が振舞われた

5. インドネシア:「インドネシアの現状とこれから」

バンクネガラインドネシア ジャパンデスク 中嶋幸人

2019年12月をもって2年間のインドネシア赴任が終了しました。今回は2年間の駐在で感じたインドネシアの現状とこれからの展開を私なりにまとめてみたいと思います。

■インドネシアのマクロ経済

インドネシアの経済成長率は2014年以降、5.0%前後で推移しています。日系企業が多く進出した2011年～2013年頃は6.0%を超えて推移していたことを考えると、伸び悩んでいるという印象です。経常収支は近年悪化する傾向で、2012年以降は赤字に転落しました。2018年にはついに貿易収支も赤字となってしまいました。それに連動するように、ルピアレートも安値に振れ、2018年の対ドルルピアレートは2010年の6割程度しかありません。しかしながら、経常赤字は2019年第3四半期（7～9月）で前年比改善傾向であり、下げ止まりの感があり、今後の回復が期待されます。

■進むインフラ整備

2019年4月のMRT（地下鉄）開業をはじめ、ジャカルタ近郊の交通インフラは大きな進化を遂げています。2019年12月にはジャカルタ市内から近郊へ向けたLRT（軽量軌道交通）が一部区間で営業を開始しました。同じく12月には高架高速道路（既存の高速道路上に乗用車向けの高速道路を併設）が開通しています。これらはジャカルタ市内や市内から工業団地へ向かう主要道路や高速道路の渋滞緩和のためのものですが、それぞれ開業区間が短く、具体的な効果はまだ少ないようです。今後は、通行料自動徴収システムの導入などにより、より一層脱クルマ社会の実現を目指していくものと思われます。一方で、渋滞解消については、主要道路のナンバー規制（例えば、奇数日はナンバー末尾の数字が奇数の車しか通れない）等は一時しのぎの政策でしかなく、道路の拡張・レイアウト変更や交通信号の設置など根本的な施策による解決なしではもはや解消できない状況にまできているように思います。これらの施策は自動車関連産業に多くの日系企業が携わっている観点からも注目すべき政策だと思います。また現在、湾港や新幹線の開設に向けた動きも見られます。今後もインドネシアのインフラ整備は順調に進んでいく見通しです。



【2019年4月に開業したMRT】

■豊かな国民性

インドネシアの人たちの多くは、人生を楽しんでいるように思います。多様な宗教を認め、他人に寛容な雰囲気です。職場やプライベートにおいても激高するような人はめったになく、自分の思うようにならなくてもそれを受け入れるという傾向があります。日本で問題となっているハラスメントはほとんどなく、多くの人々が心豊かに生活しているように見えます。一方で、それがあいまいなことが多かったり、時間にルーズであったりと規律やルールを守る・管理するという面ではマイナスに作用しているようにも思えます。誰とでも話し、すぐに仲良くなることや、誰にでも笑顔で対応してくれる姿はギスギス感を感じさせない社会の象徴ではないでしょうか。今後、国が発展していく中でこのような特徴を失うことなく、豊かな国民性を大切にしていってほしいと思います。

■外資企業進出の難しさ

インドネシアには中小企業法で、外資の参入条件は土地建物を除く純資産 100 億ルピア（約 80 百万円相当）超と規制しており、工場等を建設して進出した場合、数億円規模の投資が必要となります。また、2016 年施行の内資企業との合弁義務により、卸売業、建設、ロジスティックなどの一部業種はインドネシア企業との合弁義務が課されました。これらの規制により、最近は日系企業の進出が激減しています。インドネシア政府は外資参入に対して積極的な方針を打ち出しているものの、制度面での整備が遅れており、今後のインドネシア政府の外資参入に対する方針に注目すべきです。

■最後に

インドネシアは、先進国と比べまだまだインフラの未整備や各方面での制度のあいまいさが見られます。しかしながら、2 億 6 千万人と言われる人口や多数の島国から成る広大な土地を持っており、持っているポテンシャルはとて大きいと感じました。常時夏の気候で、ゆったりと時間が流れておりマイペースな部分はありますが、いつの日かそのポテンシャルが存分に発揮され、世界において大きなプレゼンスを確立できることを願っています。



6. 為替相場情報

(1) 人民元一円為替相場(中国人民銀行公表仲値)

(単位:1人民元当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
11月25日	15.44068	11月26日	15.49091	11月27日	15.50412	11月28日	15.56541	11月29日	15.57972
12月2日	15.59114	12月3日	15.53036	12月4日	15.45428	12月5日	15.43901	12月6日	15.44688
12月9日	15.42924	12月10日	15.42329	12月11日	15.45667	12月12日	15.44855	12月13日	15.60403
12月16日	15.64505	12月17日	15.66195	12月18日	15.65239	12月19日	15.64651	12月20日	15.61890

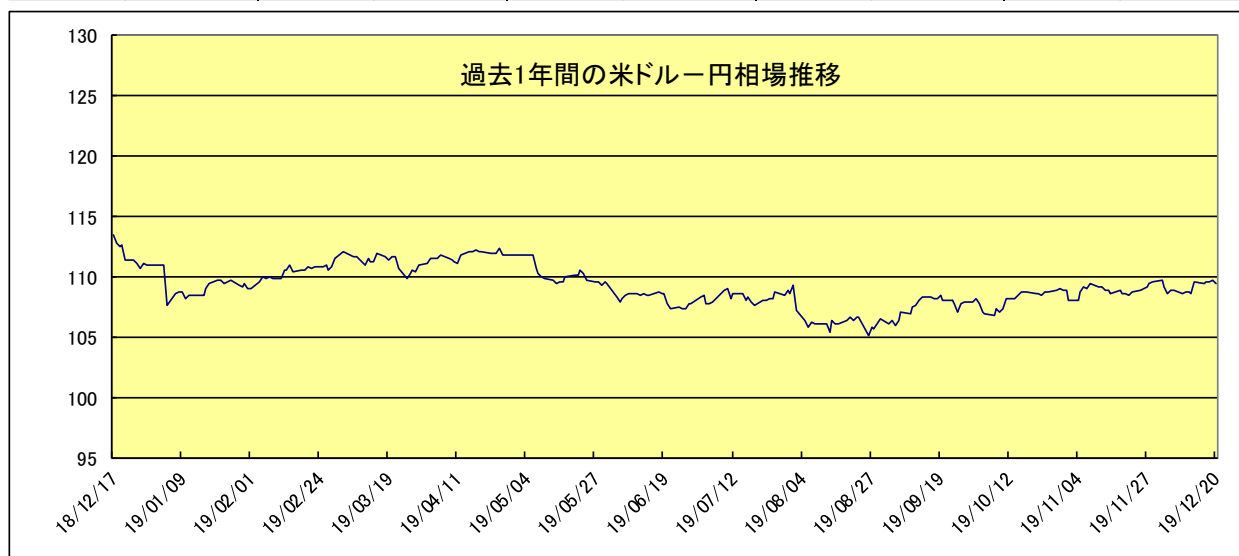


上記表、及びグラフはこの公表仲値を便宜的に1人民元当たりの日本円へ換算し直した相場です。
そのため、正式な人民元相場が必要な場合は、中国人民銀行にお問い合わせ下さい。

(2) ドルー円為替相場(当行公表仲値)

(単位:1ドル当たりの日本円)

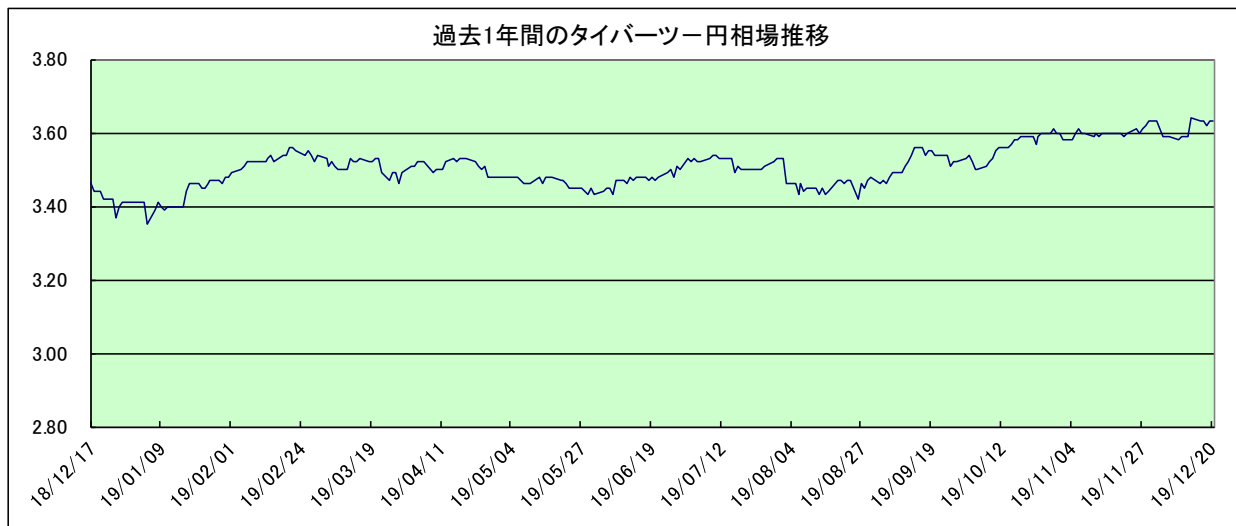
(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
11月25日	108.81	11月26日	109.06	11月27日	109.14	11月28日	109.39	11月29日	109.56
12月2日	109.68	12月3日	109.16	12月4日	108.57	12月5日	108.90	12月6日	108.81
12月9日	108.60	12月10日	108.67	12月11日	108.78	12月12日	108.53	12月13日	109.56
12月16日	109.43	12月17日	109.56	12月18日	109.54	12月19日	109.72	12月20日	109.43



(3) タイバーツ-円為替相場(当行公表仲値)

(単位: 1バーツ当たりの日本円)

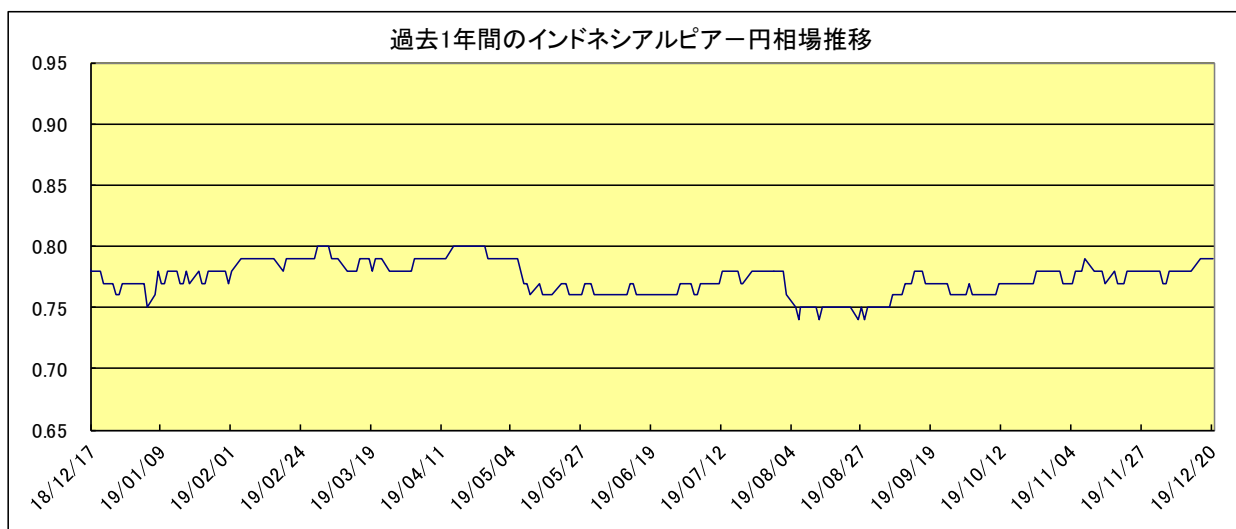
(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
11月25日	3.6100	11月26日	3.6000	11月27日	3.6100	11月28日	3.6200	11月29日	3.6300
12月2日	3.6300	12月3日	3.6100	12月4日	3.5900	12月5日	3.5900	12月6日	3.5900
12月9日	3.5800	12月10日	3.5900	12月11日	3.5900	12月12日	3.5900	12月13日	3.6400
12月16日	3.6300	12月17日	3.6300	12月18日	3.6200	12月19日	3.6300	12月20日	3.6300



(4) インドネシアルピア-円為替相場(参考値)

(単位: 100ルピア当たりの日本円)

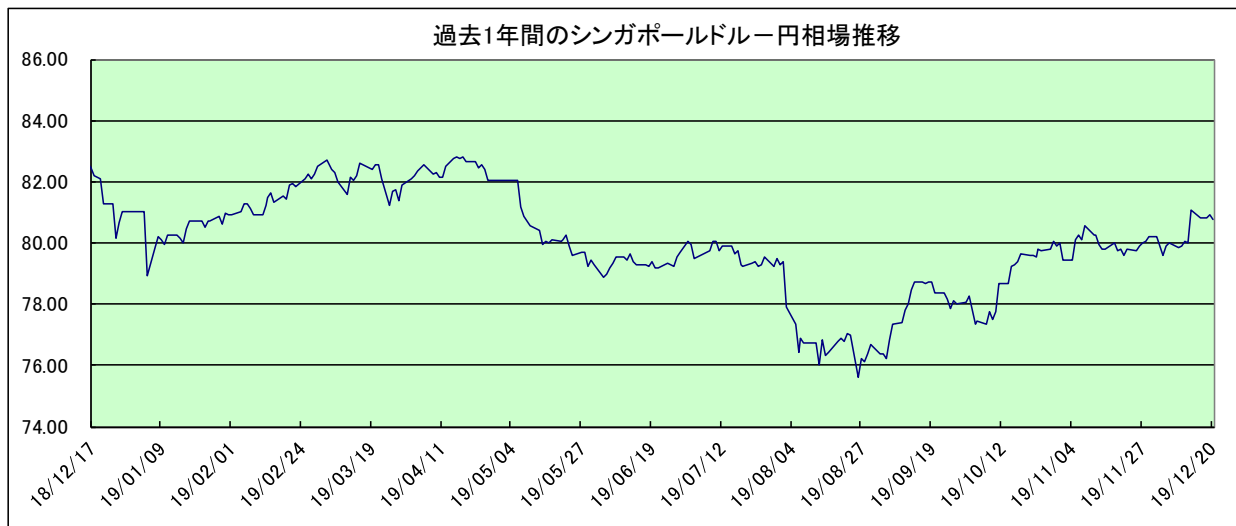
(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
11月25日	0.7800	11月26日	0.7800	11月27日	0.7800	11月28日	0.7800	11月29日	0.7800
12月2日	0.7800	12月3日	0.7800	12月4日	0.7700	12月5日	0.7700	12月6日	0.7800
12月9日	0.7800	12月10日	0.7800	12月11日	0.7800	12月12日	0.7800	12月13日	0.7800
12月16日	0.7900	12月17日	0.7900	12月18日	0.7900	12月19日	0.7900	12月20日	0.7900



(5) シンガポールドル-円為替相場(当行公表仲値)

(単位:1ドル当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
11月25日	79.7700	11月26日	79.8900	11月27日	80.0000	11月28日	80.0700	11月29日	80.2200
12月2日	80.2100	12月3日	79.8800	12月4日	79.5700	12月5日	79.9000	12月6日	80.0000
12月9日	79.8300	12月10日	79.9000	12月11日	80.0500	12月12日	80.0200	12月13日	81.0800
12月16日	80.8100	12月17日	80.8000	12月18日	80.8200	12月19日	80.9400	12月20日	80.7700



(6) ベトナムドン-円為替相場(参考値)

(単位:1000ドン当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
11月25日	4.6800	11月26日	4.7000	11月27日	4.7000	11月28日	4.7100	11月29日	4.7200
12月2日	4.7200	12月3日	4.7000	12月4日	4.6800	12月5日	4.6900	12月6日	4.6900
12月9日	4.6800	12月10日	4.6800	12月11日	4.6900	12月12日	4.6800	12月13日	4.7200
12月16日	4.7200	12月17日	4.7200	12月18日	4.7200	12月19日	4.7300	12月20日	4.7200

